

三重県議会議員  
自民党会派



# 村林さとし

県政レポート

## 県政かわら版

2016年 3月号

いつもありがとうございます。三重県議会議員をさせて頂いております、村林さとしです。2015年3月3日に行いました、一般質問について、ご報告します。現在(2016年3月)からの視点で解説も加えてみました。

### 一般質問の要約

#### 人口の社会減対策

##### (1) 仕事モデルを作るという視点

**質問**(村林さとし) 若者が地域に住み続けるためには、まずは仕事が必要であると理解しております。

これまでこういう話になりますと、雇用を生み出すために産業を振興しなければならないというようなお話になるのですが、若者定住という視点から見ると、ちょっと違ったものが見えてくるのではないのでしょうか。例えばビジネスとして見ると、合理化したできるだけ少ない人数で、もうけはできるだけ大きいほうがよいというようになると思うんですけども、若者定住として見ますと、逆にできるだけたくさんの人たちに働いてもらって、生活が成り立つだけの収入が確保できればよいということになります。これまでのビジネスモデルというような視点から、これからの社会減対策では、仕事自体を生み出して循環させる、仮の名前なんです

けれども仕事モデルというような視点が重要になると考えます。

これから総合戦略の社会減対策に当たっては、ビジネスモデルから仕事モデルへという視点の転換が必要になってくると考えますが、御所見はいかがでしょうか。



人口減少特別委員会県内調査にて

**答弁**(知事 鈴木英敬) 仕事モデルということで、もうかる視点ということだけじゃなくて定住という視点から、もうからなくても継続できる、そういうモデルの視点が必要ではないかという御質問であったと思います。地域課題をビジネスの視点で解決するソーシャルビジネスや、地域資源を活用し6次産業化を進める、いなかビジネスなどは、大きくはもうからなくても、地域の多様な資源を活用して地域でお金を回し、雇用を生んでいけるモデルだと考えております。

県版の総合戦略では、このような対策についても十分な検討を行い、地域の生活や産業が活力を維持できるよう、しっかり取り組んでいきたいと考えております。

従来の資本主義的なものに加えて、そういう部分において働く場が創出されるということは私も賛同できる部分であると思います。三重県の様々な多様な地域の状況を考えれば、そういう考え方に基づいて働く場や定住の場をつくり出していくことは重要な視点だと思いますので、総合戦略の中でしっかり検討していきたいと思っております。

#### 解説

この質問のあと、地方創生政策討論会議と人口減少対策調査特別委員会に所属させて頂き、この『仕事モデル』について議論してきました。他の議員さん方のご理解とご協力によって、この『仕事モデル』の考え方は議会全体の意見として提言してもらうことができました。

さらに先日(2016年3月2日)の一般質問においても議論をし、来年度から市町とともに研究していくという趣旨の御答弁を得ました。

(裏面へ続きます)

## (2) 南部地域活性化について

**質問** (村林さとし) 私としては、社会減に直接切り込むような施策が必要だと考えて、1年前のこの一般質問の場で若者定住奨学金や半農半Xについて提案したところです。若者定住奨学金については研究するという御答弁でしたが、その後、研究の結果はいかがでしたでしょうか。また、この二つの提案に限らず、社会減対策が県政の重要課題となる中で、社会減に直接の効果を発揮する施策が必要となってくると思いますが、そのような取組をするお考えがあるのかお聞かせください。御答弁、よろしく願いいたします。



人口減少特別委員会県外調査にて

**要望** (村林さとし) 本当に社会減の本質に切り込むような、直接課題に働きかけるような施策をもっと打っていただかないとなかなか大変なのではないのかなと、そのように考えております。

農山漁村の営みを続けていく、守っていくということは、農林水産業に従事してもらうということになると思うんですが、一般に農林水産業は、食べるということはできたとしても十分な現金収入を確保することが難しいという構造にあります。その現金収入を補うための一つの方法として、1年前にこの場で半農半Xというものを提案させていただきました。別に半農半Xに限らないです。先ほど私が提案した奨学金にも限らないんですが、とにかく本質に切り込む、半農半Xに限らないということと言えますと、何らかの現金収入を得られる道をモデルとして示していただくことが重要になるのではないかと。先ほど仕事モデルという質問もさせていただきましたけれども、1次産業と組み合わせる現金収入のモデルというようなものをしっかりと示していただければ、今度は市や町もこのモデルをやっというようにつながりやすいと思うんですね。ですから、そういうような、今の半農半Xの話ですと、1次産業と何らかの現金収入を得られる道、そのモデルを示していただけるように重ねて強く要望させていただきたいと思っております。本質につながるような取組を期待しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 解説

いよいよ平成28年度予算に若者定住のための奨学金返還支援事業が計上されました！若者定住に直接つながる事業として期待しています。

この質問のあと『半農半X』は『仕事モデル』とともに議会全体の意見として提言して頂くことができました。先日(2016年3月2日)の一般質問でも『仕事モデル』と一体となった形で、来年度から市町とともに研究していくという趣旨の御答弁を得ました。

ここまで来るのに3年以上かかりましたが、これからも粘り強く取り組んで参ります。

### さらに要望 (村林さとし)

- ・社会減対策を考えるときには『担い手』より、縁やゆかりのある方を対象にして『後継者』を作っていくことが重要です。
- ・これまで一生懸命、地域の活性化に取り組んできた方々も高齢化してきています。

しっかりと若者が定住して、次の活性化や営みを担えるということが待ったなしで、地域をしっかりとこれからも紡いでいくということに直接つながるような施策を重ねてお願いいたします。

### その他の質問項目

- ◆水産の未来
- ◆造林について
- ◆出逢い支援について など

### お知らせ

- ホームページが完成しました。  
<http://www.murabayashi.net>
- 3月9日、第一子が生まれました。女の子です。



普段の生活の中で感じていることやご意見等もお気軽に。

発行：編集「村林さとし事務所」  
「村林さとし後援会」

〒516-0101 三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦727-4  
TEL:0599-67-0067 FAX:0599-67-0068  
ホームページ <http://www.murabayashi.net>